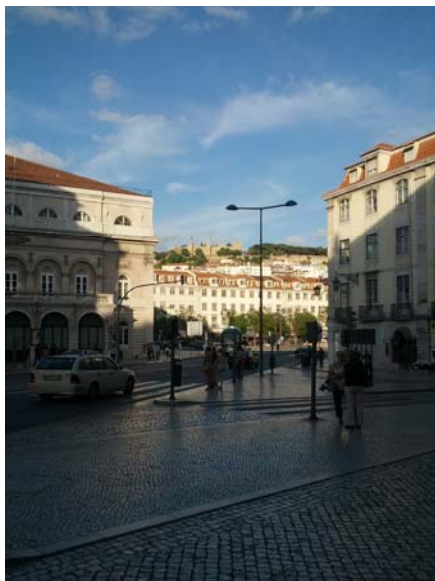


在外研究体験記



東京大学 史料編纂所
助教 岡本 真

研究者交流援助を受けて、ポルトガルのリスボンに滞在している、岡本真です。簡略ではございますが、私の滞在の様子を以下に記させていただきます。



【リスボン市街】

リスボンは「7つの丘の街」という通称の示す通り起伏に富んだ街です。市街はほとんどの歩道が石畳になっており、統一感のある街並みと相まって、美しい景観を醸成しています。南欧はスリなどが多く、治安があまりよくないという話をしばしば聞きますし、実際にそのような印象を受ける地区もあります。しかし、リスボンは南欧諸国の首都のなかでは比較的落ち着いていて、身の危険を感じることはあまりありません。日本と同様の治安・安心感とは言えないにしても、十分に滞在しやすい街と感じています。

ポルトガルは、ユーロ圏のなかでは物価が安い方なので、物価面から見ても比較的暮らしやすいと言えます。私はお酒に弱いのであまり恩恵にあずかることができませんが、ワインは非常に安いです。また、野菜、果物、肉、魚などの生鮮食品は割安で、しかも鮮度がよく非常においしいです。ただ、実際に生活してみると、想像していたよりも出費がかさみます。特に電化製品や日用品などは、日本よりも割高に感じます。これは、食品に軽減税率が導入されているからというのがありますが、近年の円安の影響が大きいと思います。

受け入れ先のリスボン新大学は、その名の示すとおり、リスボンにある公立大学のなかでは最も新しい大学で、1973年に創立されました。九つの学部で構成されており、学生は19,000人以上、教員は約1,500人います。比較的大規模と言えるかもしれませんが、キャンパスが複数に分かれていることもあり、それほど大所帯である実感はありません。

同大学社会・人文科学部が、ポルトガル国内のアソーレス大学と連携して設立した、大学横断型の研究所が、私のいる海外交流史研究所です。考古学、哲学、歴史、美術といった分野における、ポルトガルの対外交流史の研究を推進する研究所で、近年では主として、空間、文化、アイデンティティーといった側面から境界史の研究を精力的に推進しています。

私はこの研究所に客員研究員として在籍していますが、他の客員研究員は、同じポルトガル語を母語とする国や、EU内諸国から来ている人が多い印象を受けます。受け入れてくださったオリヴェイラ・イ・コスタ教授は、ポルトガルにおける対日本交流史研究の第一人者です。海外交流史研究所の所長でもあり、非常にご多忙な方ですが、そのご研究を通して、私の研究課題をすすめるうえで多くの示唆を得ています。

研究所では、私個人に専用の机や椅子が与えられているわけではなく、他の客員研究員や学生らと共用のスペースを使用しています。ただ、研究室での活動が主体となる実験系の研究とは異なり、私のおこなっている歴史学の研究は、史料そのものの収集、収集した史料の精査、関連する先行研究の読解などが主な作業ですので、研究所外にいることの方が多いです。最も頻繁に訪れているのは

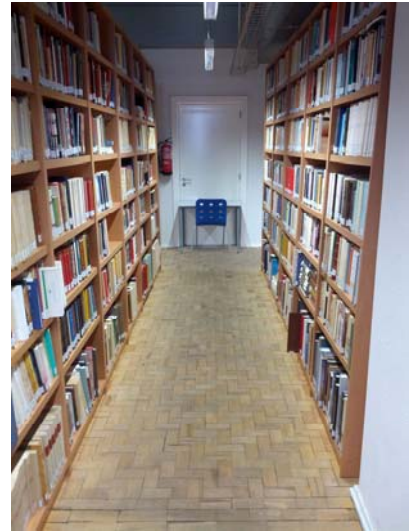


【ポルトガル国立図書館】

ポルトガル国立図書館です。閉架式なので、閲覧に多少手間はかかりますが、写本をはじめとする貴重な史料もありますし、国内外で刊行された書籍も豊富に所蔵されています。また、海外交流史研究所の蔵書は、一部を除き研究所と同じ建物内にある図書室で管理されていますので、こちらも利用しています。翻刻刊行された史料や研究書などが配架されており、日本では閲覧が困難なものも豊富にあります。

私の研究課題は、天正大地震に関する南欧所在史料を、史料学的な見地から研究することです。具体的には、その研究対象であるポルトガル人宣教師ルイス・フロイスの編著『日本史』や、同じくフロイスが来日中に書き送った書翰などについて調査・研究しています。

一例を挙げると、これまでの同地震に関する研究では、ほぼ同内容なものの若干記述の異なるいくつかあるフロイス書翰の写本のうち、主として 1586 年 10 月 7 日付のものと同 17 日付のものが参照されていて、一方の日付が誤写であるとの見解も示されています。しかし、これらのほかにも同 4 日付のものもあって、先日調査した結果、「1586 年のフランチェスコ聖名祝日、10 月 4 日」と記されていることが確認できました。アッシジのフランチェスコの聖名祝日は同日で間違いないので、この日付は誤写の可能性が極めて低いことが判明しました。内容や史料の状況からしても、この 4 日付書翰が最も信頼性が高いものと考えられます。



【図書室】

在外研究は、日本にとどまっていただけでは得がたい知識と経験を手に入れることのできる、貴重な機会です。

この場をもちまして、それにご援助くださったことに感謝を申し上げます。

このレポートが、貴財団の海外派遣援助への応募を検討されている方々の参考になりましたら幸いです。

助成年度 2013 年度（派遣期間 2014 年 6 月～2015 年 6 月）

助成種類 研究者交流援助 長期派遣

研究課題 天正大地震に関する在南欧史料の史料学的研究

派遣先 リスボン新大学（ポルトガル）